

## 8/20 できるをいっぱい！家庭科授業づくり研修講座を実施しました

授業がうまくいかないのは子供のせいではなく、設定した課題に問題があります。



▲講義「家庭科教育の現状と課題」

国立大学法人茨城大学教授 野中 美津枝 先生

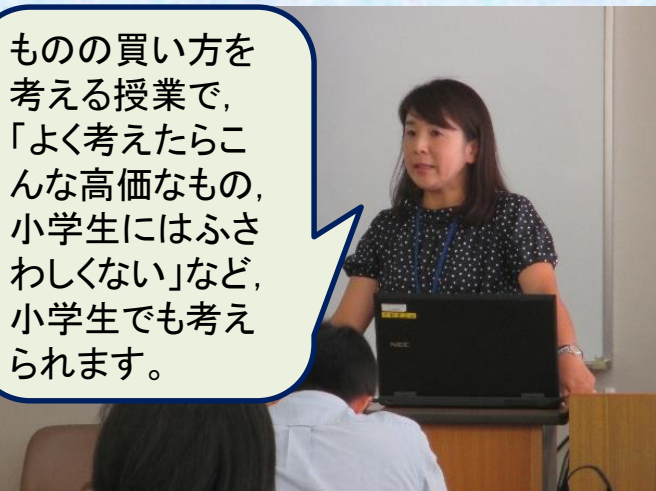
8月20日(月)、「できるをいっぱい！家庭科授業づくり研修講座」を実施しました。

講義「家庭科教育の現状と課題」では、国立大学法人茨城大学教授 野中美津枝先生より、消費者教育についての詳しいお話をいただきました。「18歳成人」と「契約」、「クレジットカード」、「消費者問題」等、具体的な内容を含めながらの講義で、教える立場としてだけでなく、自分自身の生活にも役立つ知識を得ることができました。

午後は二つの部会に分けられました。高・特別支援学校部会では、教育庁学校教育部高校教育課 綿引志雅子指導主事と、県立水戸第一高等学校 吉川訓代教諭による、講義・実習「基礎・基本の定着を図る授業づくり～調理に関する授業実践～」を行いました。亜硝酸塩の検出実験、糖度の計測等、食品に関する実験を行ったり、調理実習を行ったりしました。

小・中・特別支援学校部会では、実践発表・演習「基礎・基本の定着を図る授業づくり～消費生活・環境に関する授業実践～」を行いました。桜川市立榊穂小学校 高木真由美教諭は、児童の実生活に即した題材を設定し、実践した授業についての発表をしました。水戸市立石川中学校 野口真納美教諭は、習得した知識を生かして商品を選択する場面の授業についての発表をしました。受講者はそれぞれの授業実践を聴き、演習では、自校であればどのような題材が適当かを考えることができました。

ものの買い方を考える授業で、「よく考えたらこんな高価なもの、小学生にはふさわしくない」など、小学生でも考えられます。



▲実践発表「基礎・基本の定着を図る授業づくり～消費生活・環境に関する授業実践～」

桜川市立榊穂小学校 教諭 高木 真由美

これは、実際に授業で使用したボードです。



▲実践発表「基礎・基本の定着を図る授業づくり～消費生活・環境に関する授業実践～」

水戸市立石川中学校 教諭 野口 真納美

<受講者の感想より>

- 今後、成人年齢が18歳となり、様々なトラブルが発生すると予想される中、家庭分野で消費者教育を行う重要性を改めて感じました。
- 自分自身にも消費生活に関する知識が足りないと感じたので、法律などを見直して、まずは自分が自立した消費者になっていきたいと思います。
- 現在、小・中両方の家庭科を担当しているので、両方の先生の実践を聴くことができよかったです。
- 演習で、様々なアイデアを出し合った話し合いができてよかったです。

「消費生活・環境」や「食生活」の内容における、授業づくりのヒントをたくさん得ることができた一日になりました。

